

2024 年 6 月 13 日

学校法人三幸学園
東京医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 齊藤 亜希

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 齊藤亜希 (飛鳥未来きずな高校お茶の水キャンパス キャンパス長)
- ② 松縄和彦 (社会福祉法人三幸福社会 理事)
- ③ 齋藤豊 (東京医科大学病院 診療情報管理室 課長補佐)
- ④ 橋本敦 (全国医事研究会 理事)
- ⑤ 高橋遼平 (株式会社共立メンテナンス 副部長)
- ⑥ 沼田理恵 (在校生保護者)
- ⑦ 松本佳奈 (卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 13 日 (会場 東京医療秘書福祉&IT 専門学校 801 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 東京医療秘書福祉 & IT 専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 川畑 昌隆

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 齋藤 亜希様

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

○教務

・2023 年度については退学率が増加した。退学の主な原因は「学業不振及び目標喪失」、「心神耗弱」となっている。心神耗弱については家庭環境など原因が多岐に渡るため、2024 年度は「学業不振及び目標喪失」に対して対策を講じる。

○就職

・医療事務系の就職活動では大学病院、総合病院の就職活動早期化に対応できるよう 2024 年 2 月より会社説明会を実施。さらに 2024 年 5 月には就職合同説明会を校内にて実施することで就職活動への意識向上を図る。

○広報

・入学者数の増員を目指し、在校生スタッフの募集・育成を強化。

② 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・保護者の連絡

現状、毎年 3 月中旬に実施する新入生オリエンテーション時に学校の理念・目的・育成人材像等を伝えているが、入学後については機会がないため、伝えることが出来ていない。また保護者への連絡も出欠状況が悪い等、生徒の学校生活において問題が起きた時のみ連絡をしている状況なので本来の教育連携にはなっていない。

② 今後の改善方策

・今年度は全クラスの保護者のメールアドレスを収集し、学校のことや生徒の様子を日々メールにて共有している。問題のみだけではなく学校生活で良い結果を残した際も共有をすることで家庭の中でも学校の話柄が生まれ、認めてもらえる機会が増える。また保護者への連絡をすることで学校の教育方針についても伝える機会が出来る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・通信制高校では保護者への連絡について頻度を増やし実施している。電話が通じないこともあるため、適宜学校の情報を掲載した書面を郵送している。また保護者連絡用のアプリも導入しているため、毎日行事や学校の様子等を学校のお知らせとして保護者宛にお送りしている。保護者の皆様は年々学校への興味関心が高まっているように感じる。（齋藤亜紀委員：全学科について）

・年度の始めに検定実施日や検定費用などの共有があると保護者目線からも受験を勧められる。また、年間スケジュールの変更点等も共有いただけると保護者としては安心感を得られる。（沼田委員：全学科について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・2023 年度までキャリアパスが1 本化されていた。そのため教職員の目標設定や新たな経験を積むキャリアステップがなかったことから専門的な能力を生かせる場が少なかった。
- ・情報システム・ITについては個人の能力に依存しており、偏りが出ている。

②今後の改善方策

- ・2024 年度より本学の人事制度が改変されキャリアパスが複線化された。複線化されたことから教職員のキャリアステップが拡大され、新たな職域に選択可能になり、より専門的なことを生かすことができるようになった。
- ・職員同士で情報共有やレクチャー会を設定することや、IT リテラシーの強化をするため法人主催の IT リテラシー研修を実施している。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

- ・人事部が主催で年間を通して研修を実施している。所属している部署だけではなくそれぞれの部署で研修を実施しており、キャリアステップを踏めるようにしている。また段階的な研修を行っているので新卒から中堅までなど着実に成長できる機会がある。（高橋委員：全学科について）
- ・現在キャリアラダーを設定する方向で人事部中心に制度作りを行っている。病院としても人事や給与制度に課題を感じている。研修としては外部の方を招いた研修も実施している。（齋藤委員：全学科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・各医療機関及び企業様を招待して評価を受ける機会が少なかったため、生徒の能力向上する機会が少なくなりました。

②今後の改善方策

・就職活動サポートの一環として医療機関にお越しいただき面接練習会を開催する。

それに伴い面接評価等、外部から評価をもらう機会を増やす。

・医療秘書科学科行事である現場での患者様対応をも模したシミュレーションコンテストをはじめ、各学科の行事で外部から評価者を招き、生徒の学びに対し評価をいただく機会を増やす。

③特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・実習を受け入れる中で、カリキュラムに沿った学びだけではなく実習生、職員、利用者様三者が積極的に職務上

でのコミュニケーションが取れるようになると良い。(松縄委員：介護福祉科について)

・病院内で実習生を受け入れている中で、挨拶を自然にできる学生が積極的に院内にてコミュニケーションを取れると良い。授業だけではなく学校内のイベントや行事などを通して学びに繋がると良い。(橋本委員：医療秘書科・診療情報管理士科について)

・アルバイトで接客業をしていた学生は社会人になってからも即戦力として活躍している。授業内でより現場に沿ったことをイメージし実践的にコミュニケーションを取る練習があると良い。(松本委員：全学科について)

・IT 化が進む中で、IT パスポートを持つ学生は重宝される。専門的なことではなくある程度 IT の知識を持つ学生を各科に配置することで日常の IT トラブルに対応できるようになるため重宝される傾向がある。(橋本委員：診療情報管理士科)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学者アンケートを用いて対策を講じることがなく、アンケートを回収するのみの対応になっている。
- ・卒業後の活躍や定着率等、詳細を把握できていない。

②今後の改善方策

- ・退学アンケートの結果を分析し、同様の退学者が出ないように会議等で策を検討する。
- ・学習面で不安を抱える学生に対して検定前等に無料補講などを開催し、日々の学び向上につなげる。
- ・昨年までは担任・副担任制でクラス運営は基本的に担任 1 人が生徒複数人を指導するという環境であったが、今年度はチーム担任制にしており複数人で生徒を指導するという方策を取り、迅速に生徒対応を行えるようにする。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・通信制高校では転入学の理由として一番多かった学力不振での転入学が減ってきている。転入学の最も多い理由として出席不良による転入学があり、学習内容についていけないという生徒は以前より少数になりつつある。転入学よりも高校 1 年 4 月から新規入学している学生の方が多く学業不振を感じている。今年度から在校生 2・3 年生を中心に高校 1 年生の学業不振者をサポートする学習サポーターを始動させている。先輩が後輩に勉強を教えることでコミュニケーション力の向上にもつながっていると感じている。上級生と下級生がコミュニケーションを取る

ことで学業不振の学生が不安を感じることなく学生生活を続けているように感じる。(齋藤亜紀委員:全学科について)

・在校生の時に友人同士で勉強をし、検定取得に向けて雰囲気をつくることが重要だったと感じている。1つの目標にクラス全体で向かっていく雰囲気1つでモチベーションが変わると感じた。(松本委員:全学科について)

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題

・教員の経験値によって生徒に対して就職先の斡旋等、支援体制に差が出ている。その為、就職活動の斡旋及び就職指導にも影響がある。

②今後の改善方策

・2023 年度よりスタログというアプリケーションを導入し、生徒たちがいつでもどこでも求人が見られることに加え、就職活動のマニュアルも実装しているため就職活動のノウハウについては濃淡なく生徒が理解できる環境を設定している。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・新卒のスキル差を埋めるために病院でも研修を実施しているが差を埋めることは難しいと感じている。医療機関の業務も細分化してきているため、また新入社員それぞれの業務が細分化しているため、新卒の差を埋めることよりも適性を見極めて自分の強みや弱みを活かし活躍できる場所に配属をすることの方がより良いと考えている。(橋本委員:全学科について)

・適性を見極めるために最初の1年間で 3 か月ごとにジョブローテーションを実施しており、各科での仕事を体験してもらう支援体制をとっている。支援を受ける側もアピールポイントを用意しておくことと教員のスキルに関係なく、就職

した先で強みを理解し仕事に取り組んでくれていると感じている。(齋藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科について)

・実習先を選ぶ際に保護者も事前により医療機関の情報がわかると良いと感じる。例えば必要なワクチン接種の種類や実習生受入れ可能な病院等、細かい情報共有が分かるとより選びやすくなると思われる。(沼田委員：診療情報管理士科について)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

なし

②今後の改善方策

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ボランティア活動委員を発足したが、実施事項はペットボトルのキャップ収集が主となり、スポットで介護施設の夏祭りにボランティアへ行った実績のみとなっている。

②今後の改善方策

・今年度もボランティア委員会を発足し、今年度は生徒会と連携しペットボトルだけではなく、夢の本箱の設置をしている。ペットボトルのキャップ収集は継続し、新たに献血サポートのボランティアを画策する。

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・コロナ前は受付でボランティア受け入れをしていたが、コロナ後は受け入れがなくなっているのが現状である。
（齋藤委員：医療秘書科について）
・現在病院内のボランティアを受け入れなくなっている。病院によっては地域向けのイベントを開催している。そういったイベント等でボランティア受け入れも考えられるため、学びも就職意欲にもつながるのではと感じている。（橋本委員：全学科について）

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

①課題

なし

②今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・旅行業もあるため、外国籍の従業員が増えている。日本語レベルも基準を設けて受け入れている。（高橋委員：全学科について）

・システム部に数名はいるが、医療事務として働いている方は現在いない。海外では診療情報管理士の権威が高く、留学生でも診療情報管理士の資格を持つ方を優先としている。従って受け入れ側の体制を整える必要があると感じている。（橋本委員：医療秘書科・診療情報管理士科について）

・6割弱の企業で外国籍の方を受け入れている。日本語能力がやはり必要と感じ、コミュニケーション力の向上に課題を感じている。（松縄委員：介護福祉科について）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・2023 年度の自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただいた。
- ・2024 年度も引き続き、教育理念である「技能と心の調和」を念頭に教育や人材育成を行う
- ・委員会でいただいたご意見を実施へ繋げるために計画を立て、現場で活かせる知識や技術の提供について強化する。
- ・在校生の退学防止、卒業生との繋がり強化等ご意見いただいた対策案を今後の学校運営に活かす。